

# 持続可能な音楽振興のあり方に関する一考察 —「若き音楽家のためのおさらい会@米子」(鳥取県)の活動から—

山 川 智 馨<sup>1</sup>・竹 田 圭 助<sup>2</sup>

Chika YAMAKAWA, Keisuke TAKEDA : An Examination of Sustainable  
Approachesto Music Promotion —Insights from the Activities of ‘Review Sessions for Young  
Musicians at Yonago’ (Tottori Prefecture)

本研究は持続可能な音楽振興に向け、「若き音楽家のためのおさらい会@米子」の成果と課題を整理したものである。2022年に実施した2事業の出演者へアンケート調査を実施した結果、「知名度の向上」の提供への満足度は両公演の出演者間で差があること、無料公演の出演者は「刺激」「つながり」「知名度の向上」の順に満足度が高いこと、地元での演奏機会の提供自体も当該団体の役割であることがわかった。課題は当該団体の認知度の向上と出演者へ提供する支援内容の充実である。

キーワード：持続可能な音楽振興 演奏会 若き音楽家のためのおさらい会@米子

## はじめに

地域における文化芸術の振興を考えるうえで、人材育成の観点から地元で生まれ育った者への活動支援は欠かせない。小泉(2009)<sup>1)</sup>は音楽祭を構成する諸要素のうち、若手演奏家への専門教育支援事業を第1象限〈芸術発信重視×新たな文化創造〉として提唱している(図1)。この小泉の提唱する諸要素は、音楽祭に限らず、音楽文化に関する事業全体に広げることが可能である。

鳥取県では、これまで同県文化振興財団が地元出身の演奏者の発掘や活動支援を行ってきた。その中で大きな役割を担ってきたのが、2002年から2007年まで開催された地元アーティスト支援事業ピアノ・声楽・管弦打楽器オーディションや、2010年から2017年まで開催されたクラシックアーティスト・オーディションである。こういった地域におけ

る文化芸術の振興については、いくつかの先行研究がある。音楽分野に絞ると、たとえば勝村(松本)ら(2009)<sup>2)</sup>は文化的価値、社会的価値、経済的価値の3つの視点から沖縄県の「キジムナーフェスタ」の評価を行っている。また、古賀(2013)<sup>3)</sup>は「ながさき音楽祭」の成果と課題を報告している。音楽祭以外の事例では、白岩・脇淵(2023)<sup>4)</sup>は「山口オペラアカデミー」の活動を題材に、山口地域における音楽振興について報告と考察を行っている。鳥取県においても、前述のオーディションのほか、米子市音楽祭やアザレア音楽祭、鳥取オペラ協会によるオペラ公演などの事業がすでに展開されている。このような事業は、事務局が出演者(演奏者)をなんらかの手段で集め、会場(音楽ホール等)を借りて実施するという意味で共通している。出演者を集める手段に着目すると、出演者(音楽家)を公募するもの、公募によらずなんらかの伝手で招へいしているものに大別される。出演者を公募する場合、出演者自身による積極的なチケット販売が求められるもの、オペラでいえば声楽といったように、演奏手段がある程度特定されているものも少なくない。公

1 鳥取短期大学幼児教育保育学科

2 株式会社日本政策総研

募によらない場合は音楽家のマネジメントを行う民間企業や各種団体に登録される等の一定の関わりが必要であり、個人の伝手だとしてもその個人に知られている必要がある。これは音楽家からすれば、少なくとも誰にでも平等に出演機会があるとは考えにくい。公募の場合は音楽家があらかじめ事務局側に知られている必要はないが、費用面に関して言えば、有料の場で演奏することそのものに加え、チケットを販売することへの心理的なハードルがあることが予想される。このような状況では、音楽大学等の音楽を専門に学ぶ機関が地元でない限り、当該地域に生まれ育ったものは、プロフェッショナルの音楽家になるまでは、地元で演奏する機会は得にくく、仮に得られたとしても費用面でハードルが残る環境にある。またそれだけでなく、プロフェッショナルの音楽家になるまでは人の目に触れることがないため、地域で演奏会などの各種文化芸術振興事業の事務局側に知られる機会が得にくい。これは構造的に地元出身の演奏者による地元の文化芸術振興への関わり方が限定されているといえる。

このように地元出身の演奏家にとって構造的・心理的に制約のある状況を踏まえ、演奏者として育ち、生まれ育った地元で活躍したいと思う層に対する支援策として、どの楽器専攻でも平等かつ気軽に出演でき、さらに学生のうちから定期的に観客の前で演

奏することで、自らの地域における知名度を上げるとともに、出演者同士が切磋琢磨できる場が有効ではないかと筆者らは考えた。

この問題意識のもと、筆者らは「知名度の向上」「つながり」「刺激」の3つの場の提供を目的とし、2014年に「若き音楽家のためのおさらい会@米子」（以下、「当該団体」とする。）を立ち上げた。当該団体は音楽大学への進学を目指す高校生や現役大学生、卒業生を出演対象とした無料の演奏会であり、コロナ禍の2020年を除いて毎年公演を重ねてきた。これらの対象者へ演奏機会を提供することは、演奏者としての学びを支援することと関連することから、当該団体は小泉の提唱する第1象限に該当すると捉えることができる。そして継続的な支援という点で、持続可能性を模索することは音楽振興の重要な課題といえる。類似する事業は鳥取県内にも先行研究の報告にも見当たらない。

そこで本研究では、2022年に実施した2事業への参加者（以下、「出演者」とする。）を対象に、これまでの出演状況および当該団体の目的である「3つの場の提供」に対する満足度についてアンケート調査を行うことで、当該団体の成果と課題を整理するとともに、地元で愛される演奏者が育つための音楽振興事業を展開する一助とすることとした。

なお、本研究は令和4年度鳥取看護大学・鳥取短

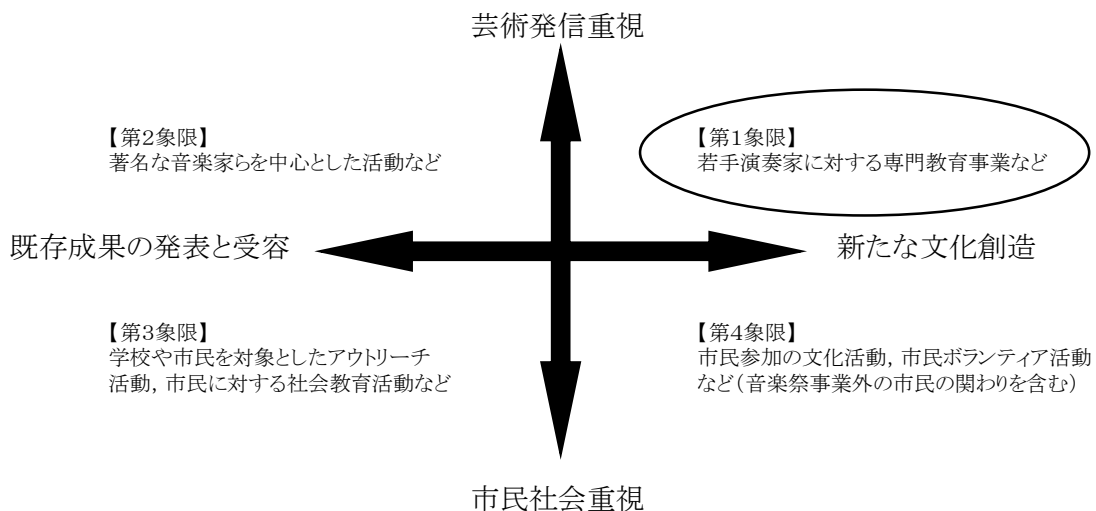


図1 小泉（2009）による音楽祭を構成する諸要素  
※単独の音楽祭が複数の要素を持つ場合もある

期大学地域研究・活動推進事業助成金の採択を受けて実施し、アンケート調査の結果と考察の一部を報告している<sup>5)</sup>。本稿では、当該団体のこれまでの活動状況についての概要を示すとともに、報告書では扱わなかった自由記述の集計結果を加え、改めて考察する。

## 1. 「若き音楽家のためのおさらい会@米子」について

ここでは当該団体の活動状況および本研究の対象である2022年実施事業について概要を述べる。

### (1) 当該団体の概要

当該団体は2014年に筆者らが立ち上げた任意団体である。下記①～③の提供を目的としており、プログラムに記載して周知を図っている。

- ①地元の皆様へ名前を知っていただき、自分の学びの過程を還元し、応援していただく（地元の皆様に愛される）きっかけとなる場の提供 [知名度の向上]
- ②地元出身で音楽を勉強している学生等のゆるやかな繋がりをもたらす・深めるきっかけとなる場の提供 [つながり]
- ③お互いの演奏を聴きあい、刺激を受け、切磋琢磨するきっかけとなる場の提供 [刺激]

出演対象は鳥取県西部出身の音楽専攻学生や卒業生、音楽大学への進学を目指す高校生である。

事務局は共同代表の筆者らを含め、5～7名で運営している。毎年12月28日を公演日に定め、8～9月頃に出演者を募集している。公演チラシやSNSの活用に加え、同公演から現在まで継続して米子市、米子市教育委員会および新日本海新聞社に後援依頼することで、当該団体の広報を行っている。また、公演当日は受付やチラシの挟み込み、ステージの転換、アナウンス等の軽微な裏方作業の協力を出演者へ仰ぐことや、開演前に全員で顔合わせミーティン

グを行っている。

本研究の対象である第8回公演以前の公演状況は表1のとおりである。出演者は毎回10～15分程度の持ち時間でソロやアンサンブルの演奏を行っている。第6回公演は、第4回および第5回公演で出演者数が増加したことから公演時間が長くなり、観客が出演者全員の演奏を聴くことが困難になったことから、公演回数を2回に増加した。また、2018年には米子市公会堂と「虹のひろば24回公演 地元出身の若き音楽家による演奏会」を共催し、約600名の来場者が訪れた。これらの活動実績から、回を重ねるごとに当該団体は規模を拡大してきたといえる。ただし新型コロナウイルスの影響により、2020年は開催を見送ったほか、翌年の2021年は出演者数や観客を制限するなど、規模を縮小する必要に迫られた。

### (2) 2022年実施事業の概要

2022年は、当該団体の従来取り組みである「若き音楽家のためのおさらい会@米子」第8回公演（以下、「無料公演」とする。）の開催に加え、さらに本格的な演奏の場を提供し、当該団体の地域と出演者それぞれに対するさらなる貢献度を高め、持続可能な活動へと展開することを目的として、大学卒業生を対象とした有料の公演である「若き音楽家のためのおさらい会@米子コンサートシリーズ」（以下、「有料公演」とする。）を新たに企画した（表2）。有料公演の出演者数は2名のみとなったため、演奏時間はひとり30分に設定した。

## 2. アンケート調査

### (1) 調査対象

調査対象は、2022年に実施した2事業（表2）の出演者の計9名である。全員（回収率100%）から回答があり、有効回答数は9名（有効回答率100%）であった。

表1 第1回から第7回までの公演状況

回	開催日	会場	出演者数	出演者の専攻楽器
1	2014年12月28日(日)	米子市文化ホール イベントホール	9	ピアノ3, フルート2, オーボエ2, トランペット2
2	2015年12月28日(月)	米子市文化ホール イベントホール	11	ピアノ5, 声楽(ソプラノ), サックス, フルート, オーボエ, ホルン, トランペット
3	2016年12月28日(水)	米子コンベンションセンター-BIG SHIP 小ホール	11	ピアノ5, 声楽(ソプラノ2), サックス, フルート, トランペット, マリンバ
4	2017年12月28日(木)	米子コンベンションセンター-BIG SHIP 小ホール	21 (※1)	ピアノ7, 声楽(ソプラノ3, メゾソプラノ1), サックス, フルート, クラリネット2, ホルン2, ユーフォニウム, トロンボーン, マリンバ, ヴァイオリン
5	2018年12月28日(金)	米子コンベンションセンター-BIG SHIP 小ホール	18 (※2)	ピアノ5, 声楽(ソプラノ4, メゾソプラノ1), サックス, クラリネット2, ホルン, マリンバ2, ヴァイオリン
6	2019年8月24日(土)	米子市文化ホール イベントホール	6	ピアノ, 声楽(メゾソプラノ), フルート2, クラリネット, マリンバ
	2019年12月28日(土)	米子市文化ホール イベントホール	13	ピアノ5, 声楽(ソプラノ6, メゾソプラノ1), クラリネット
7	2021年12月28日(火)	米子コンベンションセンター-BIG SHIP 小ホール	7	ピアノ2, 声楽(ソプラノ2), フルート, クラリネット, マリンバ

※1 第4回公演の出演者21名のうち、1名は県外出身者かつ当会の出演対象である2名とのアンサンブルの一員として出演した。  
 ※2 第5回公演の出演者18名のうち、1名は県外出身者でゲストとして出演した。

表2 2022年実施事業

公演名	開催日	入場料	会場	出演者数	出演者の専攻楽器
若き音楽家のためのおさらい会@米子 コンサートシリーズVol.1 小川智也&永井友梨佳ハープリサイタル	2022年12月27日(火) 開演14:00 開場13:30	一般1,000円 高校生以下500円	米子コンベンションセンター BIG SHIP 小ホール	2	声楽(ソプラノ), マリンバ
第8回若き音楽家のためのおさらい会 @米子	2022年12月28日(水) 開演14:00 開場13:30	無料	米子コンベンションセンター BIG SHIP 小ホール	7	ピアノ2, 声楽(ソプラノ2), フルート2, クラリネット

(2) 手続き

アンケートは Google Forms で作成し、依頼文に QR コードを記載した。調査項目は回答者の基本属性(性別、年齢、所属、居住地)、当該団体を知ったきっかけおよび出演状況、これまでの出演および今回の出演による回答者の状況、今後の出演希望、当該団体への感想や意見である。回答方法は選択式と記述式を組み合わせた。満足度については、これまでの出演および今回の出演による回答者の状況で「自分の知名度が上がった」「出演者同士のつながりが持てた」「他の出演者から刺激を受け、切磋琢磨するきっかけを得た」という質問に対して「そう思う」「ややそう思う」「わからない」「ややそう思わない」「そう思わない」の5項目から1項目を選択する回答を求めた。そして「そう思う」「ややそう思う」の回答が多ければ満足度が高く、「ややそう思わない」「そう思わない」の回答が多ければ満足度が低いとみなした。さらに、「そう思う」の回答者数が多いほど満足度が高いとみなした。両公演終了後に調査目的や倫理的配慮について明記した依頼文を配布し、回答期限は2023年1月8日とした。

回答は単純集計およびクロス集計し、自由記述はコード化して類似する回答をまとめて集計した。

倫理的配慮は、回答は自由意思であること、アンケートの回答中でも研究協力を撤回できること、研究協力を拒否しても不利益が生じないこと、プライバシーに配慮すること、アンケートの回答をもって研究協力を同意したとすることについて、依頼文で説明した。また、実施にあたっては鳥取短期大学研究倫理審査委員会の承認を得た(承認番号2022-5)。

3. 結果

(1) 回答者の基本属性

回答者の性別は男性1名、女性8名であり、年齢は10歳代が2名、20歳代が6名、30歳代が1名だった。所属は高校生が1名、大学生が4名、大学院生が1名、団体に所属している社会人が2名、団体に所属していない社会人が1名だった。居住地は鳥取県が2名、鳥取県を除く中国地方が2名、関東地方が5名だった(表3)。これらの結果から、回答者はほとんどが女性で、年齢は20歳代が最も多いこ

とがわかる。また、高校生や社会人よりも、大学生と大学院生を合わせた現役学生の出演のほうが多く、さらにその多くが鳥取県外に居住していることもわかる。

表3 回答者の基本属性 (n=9)

性別	男性	1
	女性	8
年齢	10歳代	2
	20歳代	6
	30歳代	1
所属	高校生	1
	大学生	4
	大学院生	1
	社会人 (団体に所属している)	2
	社会人 (団体に所属していない)	1
居住地	鳥取県	2
	中国地方 (鳥取県を除く)	2
	関東地方	5

## (2) 当該団体を知ったきっかけおよび出演状況

当該団体を知ったきっかけは「事務局や過去の出演者からの案内」が7名、「SNS (InstagramやTwitterなど)」が2名だった。これまでの出演状況は「初めて」が1名、「2回目」が2名、「3回目」が1名、「4回目」が1名、「6回目」が3名だった(表4)。つまり、当該団体の関係者からの案内をきっかけに出演し、その後も継続している回答者が多いことがわかる。

表4 当該団体を知ったきっかけと出演状況 (n=9)

本会を知ったきっかけ	事務局や過去の参加者からの案内	7
	SNS (InstagramやTwitterなど)	2
出演回数	初めて	1
	2回目	3
	3回目	1
	4回目	1
	6回目	3

## (3) 当該団体の目的に対する回答者の状況

### 1) これまでの出演

単純集計では、自分の知名度が上がったと思うかは「ややそう思う」が2名、「わからない」が6名、「無回答」が1名だった。出演者同士のつながりが

持てたかは、「そう思う」が3名、「ややそう思う」が4名、「わからない」が1名、「無回答」が1名だった。他の出演者から刺激を受け、切磋琢磨するきっかけを得たかは、「そう思う」が5名、「ややそう思う」が3名、「無回答」が1名だった。「知名度」「つながり」「刺激」の3つの場の提供という当該団体の目的のうち、「つながり」と「刺激」に関してはほとんどが肯定的な回答である。

出演した公演別のクロス集計では、「知名度の向上」に関して「ややそう思う」と回答した2名はどちらも有料公演の出演者であり、「わからない」と回答した6名は無料公演の出演者であることから、出演した公演の種別で回答が分かれる結果となった(表5)。「つながり」と「刺激」に関しては、有料公演の出演者2名は「そう思う」と「ややそう思う」に1名ずつ回答している。一方で、無料公演の出演者は、「つながり」は「そう思う」と回答したのは2名で、「ややそう思う」の回答のほうが多かった。「刺激」は反対に「そう思う」と回答したのは4名で、「ややそう思う」と回答したのは2名であり、「ややそう思う」よりも「そう思う」の回答のほうが多かった。

### 2) 今回の出演

単純集計では、自分の知名度が上がったかは「そう思う」が1名、「ややそう思う」が1名、「わからない」が7名だった。出演者同士のつながりが持てたかは、「そう思う」が3名、「ややそう思う」が6名だった。他の出演者から刺激を受け、切磋琢磨するきっかけを得たかは、「そう思う」が6名、「ややそう思う」が3名だった(表5)。これまでの出演による満足度と同様に、「つながり」と「刺激」に関しては肯定的な回答が多く、「知名度」に関しては「わからない」の回答が最も多い結果となった。

出演した公演別のクロス集計では、有料公演の出演者2名は「知名度の向上」に関して「そう思う」「ややそう思う」と1名ずつ回答したのに対し、無料公演の出演者は7名全員が「わからない」と回答し、出演した公演の種別で回答が分かれる結果と

なった(表5)。「つながり」「刺激」に関しても有料公演の出演者は「そう思う」と「ややそう思う」に1名ずつ回答している。一方で、無料公演の出演者は、「つながり」は「そう思う」に回答したのは2名で、「ややそう思う」の回答のほうが5名と多かった。「刺激」は反対に「そう思う」と回答したのは5名で、「ややそう思う」と回答したのは2名であり、「ややそう思う」よりも「そう思う」のほうが多かった。

### 3) 今後の出演希望

単純集計では、「ぜひ出演したい」が8名、「わからない」が1名だった。「ぜひ出演したい」と回答した8名がどの公演に出演したいかは、「有料公演」が3名、「無料公演」が5名だった。ほとんどの回答者が今後も継続して当該団体への出演を希望しているが、出演したい公演については有料公演より無料公演への出演希望が多かった。

出演した公演別のクロス集計では、有料公演の出演者は2名とも今後も「有料公演」への出演を希望し、無料公演の出演者は「有料公演」への出演希望

が1名、「無料公演」への出演希望が5名、「わからない」が1名だった(表6)。このことから、今回出演した公演へ今後も出演を希望している回答者が多いことがわかる。

### 4) 当該団体への感想や意見

自由記述で回答を求め、9名中4名(有料公演の出演者1名、無料公演の出演者3名)から回答を得た。それらを重複する内容は整理し、下記の4つのカテゴリーにまとめた。

#### ①地元で演奏することに関するもの

- ・毎回スムーズに開催していただき、地元で演奏できる貴重な機会にとっても助かっています。
- ・こうして地元で演奏できることは、応援して下さる方々を身近に感じることができ今後の糧になります。
- ・なかなか演奏を披露させていただく機会が少なく、地元での演奏の機会はより少ないです。こうして米子で開いていただくことで、家族や地元の友達に見てもらえる良い機会となりました。

表5 当該団体の目的に対する回答者の状況

			合計 人数	そう 思う	やや そう 思う	わ か ら な い	や や そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答
有料公演 出演者	これまでの公演	知名度の向上	2	-	2	-	-	-	-
		つながり	2	1	1	-	-	-	-
		刺激	2	1	1	-	-	-	-
	今回の公演	知名度の向上	2	1	1	-	-	-	-
		つながり	2	1	1	-	-	-	-
		刺激	2	1	1	-	-	-	-
無料公演 出演者	これまでの公演	知名度の向上	7	-	-	6	-	-	1
		つながり	7	2	3	1	-	-	1
		刺激	7	4	2	-	-	-	1
	今回の公演	知名度の向上	7	-	-	7	-	-	-
		つながり	7	2	5	-	-	-	-
		刺激	7	5	2	-	-	-	-

表6 今後の出演希望

	合計 人数	ぜひ出演したい		どちらかという と出演したい		わ か ら な い	ど ち ら か と い う と 出 演 し た く な い	出 演 し た く な い	無 回 答
		有料公演	無料公演	有料公演	無料公演				
有料公演出演者	2	2	-	-	-	-	-	-	-
無料公演出演者	7	1	5	-	-	1	-	-	-

②知名度の向上と音楽振興に関するもの

- ・鳥取県出身の素晴らしい音楽家の方達がおられることを知ること、鳥取県の音楽文化がもっと豊かになるといいなと思います。

③出演者同士の交流と刺激に関するもの

- ・同郷の仲間と知り合いになれて切磋琢磨できることを大変嬉しく思っております。
- ・音楽の道に進まれている先輩からいろいろなお話を聞くことができ、いろんな悩みが解消し、将来、音楽を続けていくことへの希望や力をいただきました。
- ・出演者の皆様と交流もたくさんでき、より私も頑張ろうと思う、良いきっかけとなりました。

④当該団体の継続に関するもの

- ・おさらい会はこの鳥取県において、たいへん貴重な存在だと思いますし、ぜひ、これからも続けてほしいです。

これらの結果から、当該団体が地元で演奏する機会を提供すること、出演者同士の交流や切磋琢磨する「つながり」や「刺激」に関して肯定的な意見が特に多いことがわかる。また、③の「出演者同士の交流と刺激に関するもの」のカテゴリーでは、「同郷の仲間と知り合いになれて」「音楽の道に進まれている先輩からいろいろなお話を聞くことができ」「出演者の皆様と交流もたくさんでき」という「つながり」を表す記述の後に、「切磋琢磨できることを大変嬉しく思っております」「いろんな悩みが解消し、将来、音楽を続けていくことへの希望や力をいただきました」「より私も頑張ろうと思う、良いきっかけとなりました」といった「刺激」を表す記述が続いている。このことから、「つながり」と「刺激」は独立したのではなく、前者が得られたことによって、後者を得ることができたという、両者間の関連がみられた。

## 4. 考察

### (1) 出演公演別における「知名度の向上」の満足度の差について

当該団体の目的への満足度は、「つながり」と「刺激」に関してはこれまでの出演と今回の出演で大きな差異はなかった。しかし、「知名度の向上」に関して今回の有料公演と無料公演の出演者間で結果が分かれた。

当該団体の目的のうち、「つながり」と「刺激」は演奏会への出演によって得られる最終的なメリットが主に参加者個人に留まるという意味でやや内向的な目的であることに対し、「知名度の向上」は聴衆を含む他者の存在を前提とし、演奏会への出演によるメリットが個人に留まらず他者からの認知を伴う点で外部へ向けられた目的である。入場料の有無を軸にした場合、無料公演の出演者にとっては、有料公演でプロフェッショナルとして演奏する立場ではないことにより演奏に対する責任が発生しにくく、それが故に責任をもって当該団体への出演を宣伝するまでに至らないことが要因のひとつとして考えられる。

また、両公演の宣伝に対する認識や、当該団体への出演目的の差も要因として考えられる。今回は両公演の情報を1枚のチラシに収め、同時に宣伝したため、両公演の宣伝の量は同じであった。しかし、本格的な演奏会である有料公演のほうが対外的に認識され、知名度の向上に影響すると無料公演の出演者が無意識に認識した可能性もある。そのため、無料公演の出演者は「知名度の向上」を比較的重視しておらず、それよりも自己研鑽の場を求めていることが考えられる。これは現役学生や音大受験を目指す高校生という、無料公演の出演者の属性とも関連があるだろう。そして自由記述の感想でも、出演者同士で交流でき、自分も頑張ろうと思ったという「つながり」と「刺激」に関する記述が3件と複数あったこととも一致する。

さらに、有料公演に出演した回答者は、自分の知名度がやや上がったと考える理由に「終演後に知らないお客様からもたくさん声をかけていただいた」ことや、「取材を受け、新聞に写真付きで掲載された」ことを挙げている<sup>6)</sup>。今回は地元の新聞社である新日本海新聞社に後援を依頼しており、有料公演の当日は同社記者の取材を受けた。有料公演の翌日に掲載された記事の最後にはこの日の無料公演の情報も記載されていたが、このような出演前後の広報の差も今回の結果につながったのではないだろうか。

## (2) 無料公演の出演者における3つの場の満足度の差について

無料公演の出演者は、これまでの公演と今回の公演いずれにおいても「刺激」の満足度が最も高く、次いで「つながり」「知名度の向上」という結果となった。この要因について、他者との距離感の差という視点で考察したい。

「知名度の向上」と「つながり」は、他者の評価による影響を受ける要素である。一方、「刺激」は自分自身の個人的な感情や内的な評価である。そのため、自己評価が主要な要因となる「刺激」が最も評価しやすく、満足度の高さにつながっていることが推測できる。それに対し、「知名度の向上」は不特定多数の観客、「つながり」は自分以外の出演者との関係がそれぞれ影響する。同じ公演に出演した出演者のほうが不特定多数の観客よりも関わりは多く、内的な目的といえる「つながり」は「知名度の向上」よりも評価しやすいだろう。不特定多数の観客は自分との距離感に加え、範囲も広いために評価がしにくく、肯定的な回答でも否定的な回答でもなく「わからない」という回答が選ばれたのではないだろうか。これらの結果、満足度の高さが「刺激」「つながり」「知名度の向上」の順になったと考えられる。

## (3) 地元で演奏する機会に対する満足度について

自由記述の感想に、「知名度の向上」「つながり」

「刺激」それぞれの満足度だけでなく、地元で演奏できることそのものに対して肯定的な記述が3件あった。回答者は地元で演奏する機会を「貴重」「少ない」と捉え、当該団体にその役割を求めていることがうかがえる。それは今後の出演希望について、ほとんどの回答者が「ぜひ出演したい」と回答したこととも関連があると推測され、ここにも当該団体の成果が出ていると考えてよいだろう。

鳥取県には音楽を専攻する大学がなく、ひとたび音楽を専攻するという選択をとった場合、県外の大学で学ばなければならない実情がある。今回の回答者9名のうち、現役学生の6名と社会人1名の計7名が県外に居住していることにも、その実情が表れている。特に地元から遠く離れた大学で学んでいる現役学生にとって、自主的に地元で演奏する機会を持つことは、演奏者自身が慣れない地元で宣伝・集客を含めた演奏会運営を行うことは容易ではない。こういった背景は無視できず、当該団体が持続可能な事業のあり方を構築し、展開していくことの意義を見いだすことができるだろう。

## (4) 持続可能な音楽振興に向けた課題

出演者の視点から、当該団体が持続可能な事業のあり方を模索することの意義は先述した。それが音楽振興につながることは冒頭で述べたとおりである。自由記述の感想にも、②の「知名度の向上と音楽振興に関するもの」のカテゴリーに1件ではあるが、「鳥取県出身の素晴らしい音楽家の方達がおられることを知ることで、鳥取県の音楽文化がもっと豊かになるといいなと思います。」という、「知名度の向上」に基づいた鳥取県の音楽振興を期待する記述がみられた。また、④の「当該団体の継続に関するもの」のカテゴリーでも、「おさらい会はこの鳥取県において、たいへん貴重な存在だと思いますし、ぜひ、これからも続けてほしいです。」という、当該団体の継続開催を要望する記述がみられた。これらの達成に向けて、どのような事業のあり方が考えられるか、以下に述べる。



まずは、当該団体のさらなる周知があげられる。これまでの平均出演者数は10.5名であり、比較的安定しているとみることができ、今回の出演者が出演したきっかけはほとんどが「事務局や過去の参加者からの案内」であった。それは継続出演にもつながっていると評価できる一方で、当該団体の関係者とのつながりのない出演者が少なく、地域に広く根差した事業とまでは達していないことも示唆している。これを改善する手立てとして、たとえば受験生に焦点を当て、県内西部の高等学校や各種音楽教育団体と連携した事業を共催することが考えられる。2018年に実施した米子市公会堂との「虹のひろば24回公演 地元出身の若き音楽家による演奏会」の来場者数が約600名であったことから、学校や施設、団体との共催は地域への周知という点で有効な手段と推測できる。

また、演奏者としての学びへの支援という点では、出演者が裏方作業を経験することも重要であると考える。通常、出演者と裏方スタッフは両立せず、出演者が演奏に専念できるような運営体制を作ることが多い。音楽分野でいえばオペラ公演、音楽以外の分野でいえば演劇公演などは裏方スタッフを公募することもある。今回の有料公演では、無料公演の出演者にスタッフを依頼し、有志で2名の協力があつた。裏方作業の経験をとおして演奏会の運営にどのような作業が必要なのか、スタッフがどのように動くのかを学生のうちに知ることは、運営側と出演者側の双方の立場を理解するきっかけとなり、双方の立場を経験し理解することは自らの演奏者としての内省と行動変容に繋がるため、将来音楽を含む文化芸術振興に携わるうえで有意義な学びになるのではないだろうか。このように出演者へ提供する中身の充実も、持続可能な音楽振興に向けて求められる。

## おわりに

本研究は、「知名度の向上」「つながり」「刺激」の3つの場の提供を目的とする当該団体の成果と課

題を整理することを目的とし、当該団体が2022年に実施した2事業の出演者を調査の対象としてアンケート調査を実施した。その結果、内的な側面をもつ「つながり」や「刺激」の満足度は高かったが、外的な側面をもつ「知名度の向上」は両公演の出演者間で満足度に差があった点や、無料公演の出演者は「刺激」「つながり」「知名度の向上」の順で満足度が高かった点で示唆を得ることができた。また、地元で演奏する機会そのものの提供も、当該団体の役割であることが見いだされた。他方、「知名度の向上」が両公演の出演者間で異なった理由を分析するためのデータは取得できなかったことが本調査で積み残された課題となった。

今回の調査を踏まえ、外的な側面をもつ「知名度の向上」の観点から、次回の調査は「知名度の向上」の満足度に焦点を当てたデータの取得・分析を実施するとともに、知名度向上の主要なファクターである当該団体各公演の観客を対象とすることで、より多角的な分析を実施することとしたい。

## 謝辞

本研究は、令和4年度鳥取看護大学・鳥取短期大学地域研究・活動推進事業助成金の採択を受けて実施しました。アンケート調査にご協力いただいた出演者のみなさま、そして当該団体の運営にご協力いただいた事務局のみなさまに心より感謝申し上げます。

## 著者資格

CYは研究の着想、アンケートの作成、データの集計と分析および草稿の作成：KTはアンケートの助言、データの分析：すべての著者は最終原稿を読み承認した。

## 引用・参考文献

- 1) 小泉元宏「市民社会との関わりから見た音楽祭研究に向けて—『サイトウ・キネン・フェスティ

- バル松本』における市民社会との関わりを事例として一], 『音楽教育学』第39巻第2号(2009), pp. 12-24.
- 2) 勝村(松本)文子・後藤和子・吉川郷主「観客アンケートにもとづくこどものための演劇フェスティバルの評価についての分析—キジムナーフェスタを事例として—」, 『文化経済学』第6巻第3号(2009), pp. 49-61.
- 3) 古賀弥生「音楽祭を通じた芸術文化振興と地域振興—「ながさき音楽祭」の成果と課題を考える—」, 『活水論文集 現代日本文化学科編』第56巻(2013), pp. 83-98.
- 4) 白岩洵・林満理子・脇淵陽子「山口地域における音楽振興の報告と考察：山口オペラアカデミーの活動を題材として」, 『山口大学教育学部研究論叢』第72巻(2023), pp. 247-253.
- 5) 山川智馨・竹田圭助「鳥取県における音楽文化の振興に関する研究—「若き音楽家のためのおさらい会@米子」の実践と出演者へのアンケート調査から—：令和4年度鳥取看護大学・鳥取短期大学地域研究・活動推進事業助成金報告」, 『グローバル：鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター年報』第6号(2023), pp. 68-71.
- 6) 「伸びやか歌声, 幻想的打楽器 若き音楽家のためのおさらい会@米子 新たな“ステージ”開催」, 『日本海新聞』, 2022年12月28日付, 21面.